

### 3-5 飛越地震と大町地震

The Hietsu Earthquake of April 9, 1858 and the Omachi Earthquake of April 23,  
1858

東京大学地震研究所

宇佐美龍夫

Tatsuo Usami

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

安政5年2月26日に発生した飛越地震は跡津川断層の活動によるものであるが、この地震によって常願寺川の上流が各地で、土砂のために塞がれた。その一つが3月10日午前10時ころの地震で決潰した。このキッカケとなった地震は、武者の「日本地震史料」によると、午前8時ころの松代領内の地震で、史料は10行ほどしかなく、詳しいことは不明である。目下印刷中の「新修日本地震史料」によると、これは大町付近の被害地震であることがわかった。第1、第2図参照。そこで姫川谷沿いの過去の地震の震源域を第3図に示した。図中の断層は「日本の活断層」のうちから、この報告に関係のある地域のもののみを記入した。跡津川断層と糸魚川-静岡線の交わる所に、3月10日の大町地震が発生している。“縁は異なるもの味なもの”というべきであろうか。なお、姫川谷の地震は北から南へ移動しているようである。

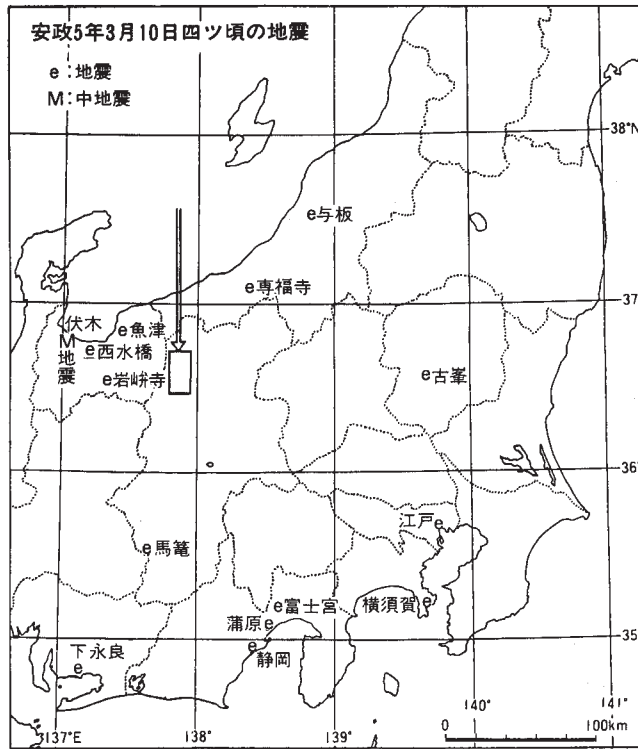
第3図では、松本付近に地震はないが、「新修日本地震史料」によると寛政3年6月23日(1791.7.23)に松本市を中心に被害地震があった。また享保3年7月26日(1718.8.22)の遠山谷の地震では被害域が飯田市に及んでいること、同10年7月7日(1725.8.14)の高遠の地震では、諏訪域にも被害が発生したことが明らかになった。これらの地震も記入すると第4図のようになり、天龍川沿いに地震は北へ移動したことになる。

江戸時代以降の姫川・天龍川沿いの地震の様子がハッキリしたと思う。

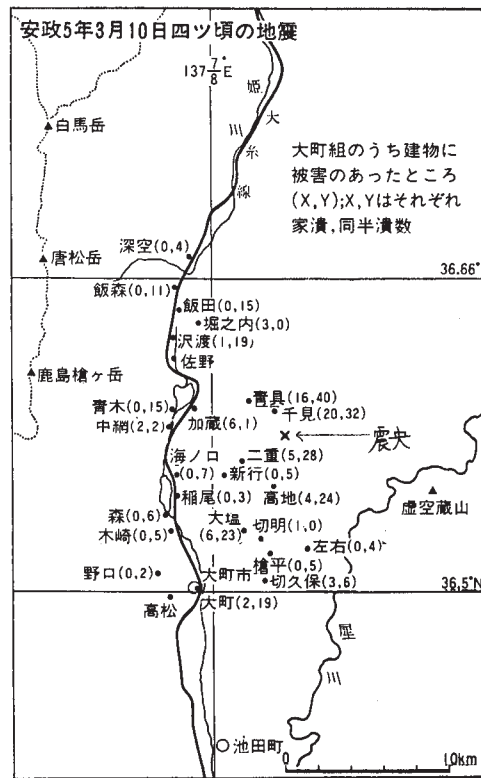
また第4図1718年の地震の南に715年7月4日の地震域がくるのではないかと思う。

第1表 安政5年3月10日の地震の記述

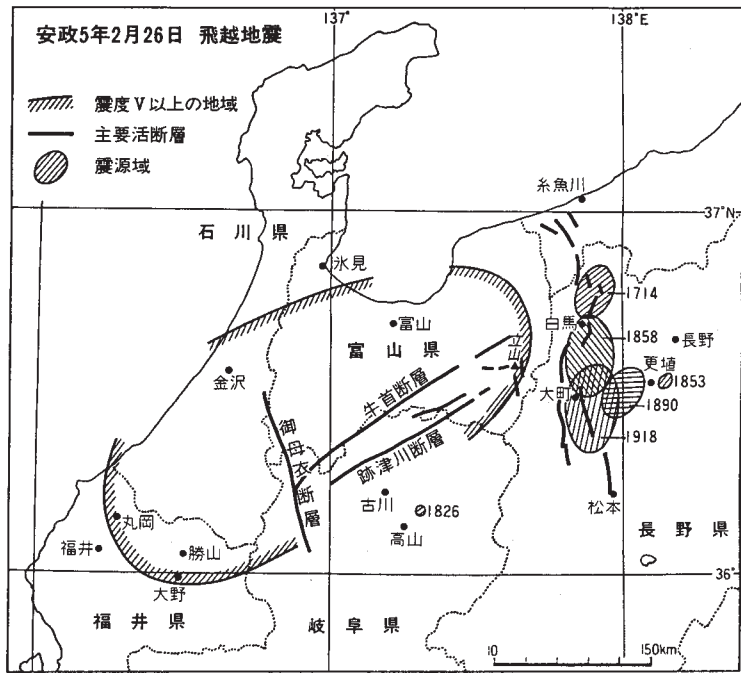
文 書 名	備 考	主 な 内 容
安政五年越中立山変事録	富山藩主家文書	三月十日巳ノ刻より常願寺川入谷に当り山間鳴動し午ノ刻ニ至り常願寺川一面の黒煙立上り…一時に押流れ…
安政五戊午年二月大地震記	森田平次（加賀藩）筆	十日朝五ツ時、四ツ半頃地震ニテ、其刻限不遅、常願寺川奥詰より一時ニ大地震動して大山を如押出大洪水仕来…
西水橋役人報告書	3月11日	十日昼時少し前、常願寺川之上之方鳴動仕ニ付…、八ツ時頃、水橋川俄ニ出水仕…
安政大地震真川筋崩壊見取図説明文	杉木文書	三月十日昼午刻頃、山中振動して一時ニ流出……
大袋	全上	十日八ツ半頃俄泥洪水
大地震山抜等御達書	菊地文書	十日朝より鳴動…四ツ、四ツ半大地震…八ツ半大出水
中新川郡上市町誌	寿尻村	巳上刻・午上刻兩度地震、午下刻に地鳴洪水
覚書（新湊）	高田文書	十日四ツ頃地震
応響雜記		五ツ半中地震、四ツ半再び
魚津言上留一抄		昼九半頃大鳴して出水
地震記	三月十四日	巳ノ刻頃より山鳴震動…午の刻黒姻立ち洪水
北国地震記		五ツ、四ツ半地震
日々雜記帳（阿岸）		四時～昼後、地震三回
浦日記（江戸？）		四ツ前、四ツ過兩度
浜浅葉日記（三浦）		五ツ、四ツ兩度
袖日記（富士宮）		五ツ半時地震ゆる
津輕藩日記（江戸）		巳ノ刻前地震
汲深斎晴陰記		辰後地震
古峯神社日記		朝五ツ時
大黒屋日記		四ツ時少々
榊原藩日記（高田）		辰下刻兩度少々地震
神沢村御用留		四ツ時小地震
大石善言日記		四ツ頃兩度
日記（与板町）		五ツ半過、四ツ半頃地震
下永良陳屋日記		四ツ時地震
御城書	眞田信濃守届書 (21日)	十日辰過～酉頃地震強、城下町…半潰・大破、城内…無別条、村々…潰・半潰、山中筋…山抜・地裂



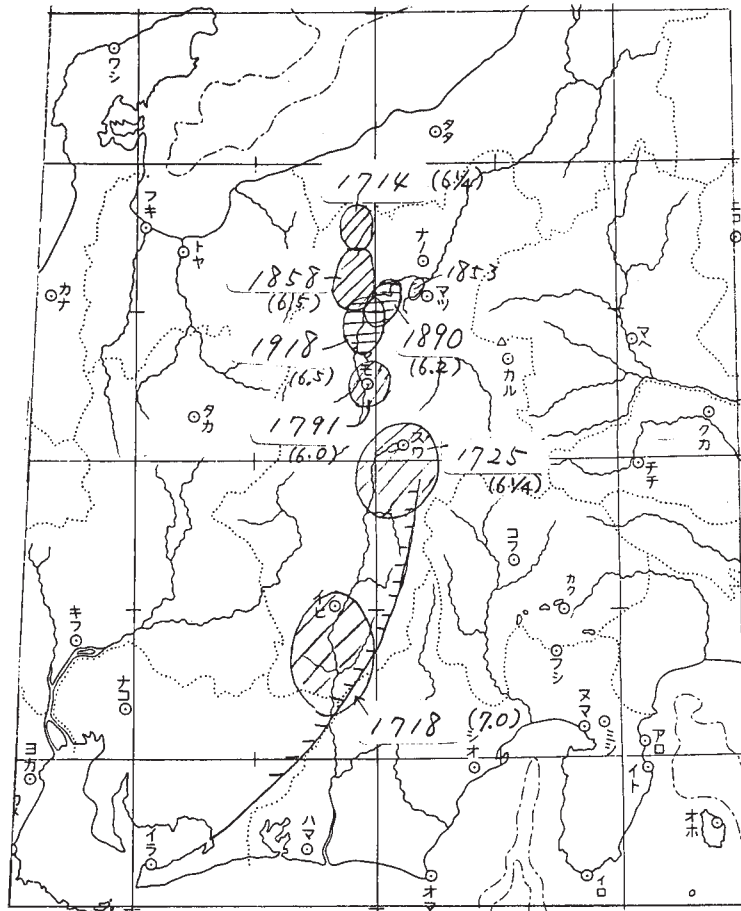
第1図 大町地震の震度分布



第2図 大町地震の被害分布



第3図 飛越地震と姫川筋の地震との関係



第4図 姫川・天竜川沿いの歴史地震